

ラナウの一日

” おはようございま〜す。 ”” オハヨ！ “

” グッドモーニング “ ” ハーイ， モーニング！ “

“スェラマッパギ” ” パギ， アパカバール？ “” カバールバイ “

と， アチラ， コチラで朝の挨拶が元気に交わされる。

昼間の外気温 29～31℃を全く感じさせない 朝の冷氣（20℃）が爽やかに感じられる， ここスラゴン ホームステイの一日はこうして始まる。

挨拶の後は， 各自， 各グループそれぞれが自炊の朝食を用意 朝食をオーダーしている人達は， 今朝はどんなメニューか？と楽しみに待っている。（ヴァリエーションはかなり少ない）。簡単なパン食の自炊組は，“オーブントースター空きましたヨ〜”，“ポットのお湯が沸きました〜”と賑やかに食事の準備。

“あれっ， 今朝はごはんとお味噌汁？”

と横のテーブルを覗き，“お米は現地



米？” “そうヨ。”と自炊ベテラン女史。我がグループのメインは， チーズ， ピーマン， プチトマトのピザトーストとピクルス（やはり現地調達の食材）， コーヒー， 紅茶はスラゴンからの無料サービス。 場所は， ウッドデッキの様な広い渡り廊下がまるでロビーか食堂のようになっている， 殆どオープンエアーの気持ちの良いテラス。ここで， この様な気持ちの良い朝を過ごすようになって， 一体何年になるだろう。

最初の年（2008）は， 「ちょっとお試し」で8日程だったのが， その後は冬に2か月， 日本の梅雨時に2か月， 一年のうち約4～5か月程， ここボルネオ島で過ごすようになっている。そして今年の冬でスラゴンへは14回目の滞在となった。

朝食の片付け， 身支度を済ませると， 殆ど全員が(特に日本人)ゴルフ場に向かう。スラゴンの車でピストン輸送されたり， スラゴンでチャーターするバス・ミニで2往復して貰ったり。日本では殆どコースに出ない私が， ここでは9ホール(ラナウ・ゴルフ・コースは9ホールのみ)， ゴルフバッグを積んだトローリーを自分で引きながら， 毎日， 毎日飽きもせずボールを大量にジャングルの谷底や蓮の花が美しく咲く池に放り込みながら， エクササイズのつもりで回っています。

ゴルフの上手な人達でもかなり苦戦するというこのコース， 目の前にドーンと聳えるキナバルの奇峰を望み， 豊かな緑， 色とりどりの花々や果物， 珍しい鳥や蝶に囲まれての長閑なプレイは最高！！スコアなんて数えてもいない(だから成長しないのヨ。と言われながら・・・)

ゴルフの後は“今日は街に出てお昼にしようか？それとも買い物が無ければ近くで済ませようか？”と、時によってまとまって行動したり，グループに分かれたりで昼食。

朝夕は心地よい気温が日中は30℃を超える程暑いけど，木陰，太陽が雲に隠れた時，爽やかな風の下では，ホッとする涼しさになる．とは言え，スラゴンに戻ったらシャワーが



一番！夕食までは，それぞれお昼寝，お茶タイム，読書，フェースブック，趣味や勉強の時間・・・，と楽しんでいる．18:00～18:30頃“GOHAN DESU YO～”と言うスタッフの声で夕食がスタート．食事中の話題は専ら今日のゴルフの反省，反省．さぞ明日のスコアーは良いのでしょうか！ 男性陣はこちらのお酒

“MONTOKU”がお気に入りの様で，時の経つのを忘れて飲んでオシャベリ，旅の情報交換．そしてやっぱりゴルフのこと．

9:00 頃，誰からともなく“おやすみなさい”の声が掛かって各自の部屋に戻り，こうしてラナウ・スラゴン・ホームステイの一日が暮れていきます．

こうした日々の連続が殆どですが，時々イベントがあったり，ご招待を受けてお出かけしたりと言う事もあります．又，新しいステイヤーがやって来たり，次の地に向かう人々が去って行ったり，コタキナバルやクアラルンプールから休暇を楽しむマレー人のグループや家族，又，観光ツアーで立ち寄る欧米の人達がやって来たり，と人の出入りも賑やかです

2015 年のイベントの幾つかを日記から抜粋してお話します．

1 月 3 1 日（土）．〔強い雨の一日・結婚式に参加〕

朝からの雨が9時になっても上がらず，ゴルフはムリ．ランチをゴルフ場横の「HAW HAW」に，と決め，歩いてゴルフ場に向かう．約40分．多少の期待はあったがやはりゴルフはムリ．ランチを済ませ，スラゴンに戻ると Dr. ルンキャンムさんからウェディングがあるから一緒に行こうとお誘いを受ける．いきなり言われるのはいつものこと．今回行動を共にしている R さん，F さんと我々の4人が参加．Dr 夫妻の友人の娘さんの結婚式．大きな邸宅の広い空き地に，これまた大きなテントが幾つも張られ，雨を物ともせず大きな音量で音楽が鳴り響き，のどに自慢の人達が次々に歌を披露．受付で” 名前は？ どこから来たの？”とサインを求められる．何回か結婚式に出席したがこれは初体験．ご祝儀を渡す，

どこに花嫁花婿が？とテーブルに収まって改めて見回す．大きなターンテーブルから取り分けられたご馳走をいただいているところへ，新郎新婦が挨拶に回って来る．アレッ，ち

よっと意外，40才過ぎらしい現地女性と50才は過ぎているだろうと思われる，額がと～っても広い白人男性のカップルだった．幸せそうなもの，な～んにも問題ない． テントの屋根に溜まった夥しい雨の塊？を，親戚筋らしい若者達がテントの下から棒でつついて振り落す！兎に角話し声も歌も聞こえなくなってきた程の豪雨の中のウェディングでした．

2月21日（土）〔誕生会〕

スラゴン宿泊中誕生日を迎えた人には皆で“HAPPY BIRTHDAY！”の歌と，ケーキをプレゼントするのが恒例になっており，この日は Mr. KA のバースデー．自炊ベテラン女史が作った五目寿司，スラゴンの夕食，ケーキ，Mr. O 持参の何やら難しそうな名前の日本酒で“オメデトウ！！”

2月22日（日）〔マシディ大臣から昼食会のご招待〕

前々から Dr.夫妻から聴かされていた，サバ州政府の観光・環境・教育の三部門の大臣である Dr マシディ氏からの昼食会ご招待の日程が，二転三転して今日に決定．場所は Mt キナバル国立公園内のレストラン，久しぶりに公園ヘッドクォーターに着いた時，2006年4月，4095mのこの山に登山した日が懐かしく思い出された．

現在スラゴン滞在中の日本人との会食と言うことで．たまたまラナウ周辺ワンデイツアーに出かけたOさん，Kさんを除く11名の日本人が参加． レストラン奥のレセプションホールにセッティングされたブュッフェスタイル昼食．今日は大臣特注のカダザンドゥスン族特有の料理がメインとのこと．とても豪華でオ・イ・シ・イ！



ボルネオ，そしてキナバル山麓にあるここラナウの自然や優しい人情に対する，我々の熱い思い，「犬を放し飼いにならないで」「道路や公共の場所でのゴミの清掃」「公共トイレをキレイに」「停電，断水を少なくして」「インターネットの接続を速くして」・・・等をまとめた我が相棒のレポート数枚をビックリする程の速読で読み終わり，即，役所内にNETで配信すると約束．ディスカッションの中では，日本のウィスキーについての知識の豊富さにも驚かされる．また Dr ルンキャムさんが昨日は Mr. KA のバースデーだったと伝えると，なんとデザートタイムにキャンドルを立てたケーキが運ばれて，Mr. KA にビッグサプライズなど流石ロンドン大学出身の Dr. 大臣のウィットに富んだ機転，行動と決断の速さに改

めて感心！

2月27日（金）〔ゴルフ場でのSAKE・PARTY〕

ゴルフ終了後、スラゴンに戻り、女性陣皆でオニギリ作り．自炊ベテラン女史に、こちらのもち米10%、あとはインディカ米でご飯を炊いてもらう．

今日はここ数年恒例になっている、ゴルフ場関係者、地元のゴルファ、スラゴン滞在の日本人との間で行われる通称「SAKE・PARTY」．ゴルフ場側がBBQ、日本人側は日本から持参の日本酒（SAKE）とおつまみを持ち寄り、親交を温めようというパーティーです．

新社長のANDREW とは初顔合わせ、前キャディーマスターで今はタクシードライバ



ーのJAILEYも、私たちが愛して止まない美味しいレストランを去年までやっていたSHOWNも、ゴルフ場が経営しているホテルとレストランのマネージャーのMIKE、いつも可笑しい日本語、英語で笑してくれるJOUS等々皆いつも親しく親切にしてくれる人々ばかり．グリーンキーパーのBOBYは友人と二人で炭を燃やして煙に巻かれながら、

次々と大量のソーセージや鶏肉を焼いてくれている．キャディのPAYAKもNANKAH(ジャックフルーツ)を煮て持って来てくれる．同じくキャディだったLIMO I、家でかなり飲んできたらしく本物のヨッパライで登場．日本人グループで、マレーシア、特にサバ州の人達が大好きなキナバル山を称える歌“SAYA-SAYANG KINABALU”を唄うと大受け．何故か現地の人で



“荒城の月”を知っている人がいて、正しく教えて欲しいと言われ、これまた皆で大合唱！！

当ゴルフ場ナンバースリーの名人や Dr オスマンの息子シーザーも交えたゴルフの会が約束されて、楽しいSAKE・PARTYは今年も無事終了．

2月28日 [カンボン・スタイルの結婚式に参加] (カンボンは村の意)

今日は、ゴルフ場経営陣ナンバーツーの J U I S の息子さんの結婚式。当初「SAKE・PARTY」は2月28日としていたが、この結婚式とバッティングしてはマズイだろうとゴルフ場側関係者達の計らいで昨日に変更されたのだった。

車はラナウの街を通り過ぎ、“G・マート”(とても大きなスーパーマーケット)も通り過ぎ、SABAH・TEA ガーデンへの道をひた走る。花婿の父 J U I S は日頃ラナウの街中に住んでいるが大勢の人が集まる結婚式のため郊外にある自分の果樹園を会場にしたとのこと。広々とした、緑に包まれた高台に幾つものテントが張られ、我々の到着時には宴たけなわ。ANDREW, MIKE, JOSE・・・, 知っている顔・顔・顔。(だから S A K E ・ P A R T Y を昨日にしてくれたのネ。)皆和やかに楽しげ。アレ! 国教はイスラム教と定めているマレーシアでもクリスチャンが多い、ここサバ州は例外で、地酒、ビール、ワイン、ウィスキーが振る舞われている。「ジョニ黒だってあるヨ。」と見せてくれる。これがサバ州のおおらかさ!



花婿の父 J U I S が唄う曲に合わせて新郎新婦がダンス。なんと微笑ましい幸せな光景。緑の山々の彼方にうっすらと夕焼け雲が浮かぶ。今日はキナバル山はちょっと隠れていたものの、ジャングルの民の大自然に抱かれ

て生活する様子を肌で感じる事が出来た。

実は二人のケーキカット、指輪交換の際に何気に流れていた曲が “X ジャパン” の曲だったこともお伝えしたい事柄。こちらでは日本の音楽はとても愛されている様ですヨ。



3月1日(日) [正しいイスラム式の結婚式]・[チャイニーズ オープンハウス] に招かれる

今朝は、クンダサンで行われる、Dr ルンキヤムさんの姪御さんの結婚式に招かれ、Rさんと3人で参列。山の上の眺望の素晴らしいコテージのテラスに大勢の人達が集まっている。

コテージの狭い一室に、親族一同、結納品の山に囲まれて新郎がかしこまって座っている。



前に居るイスラムの長老、仲介の方からアレコレ質問を受けたりお説教をされたり。あげくの果て花嫁のお父さんから、娘を大事にするか？（多分そうおっしゃっている）等々延々と続く儀式に、汗を流してひたすら「ハイ、ハイ」と深々と頭を垂れて返事をしている。花嫁さんのお父上からの一言一言は相当こたえるものだったよう。一連の儀式が終わり、初めて花嫁さんと顔を見合わせてホッと

した様子。ここでの結婚式では一切アルコール類は供されない。厳格なイスラム式と言う事。式が終わって、2人で玉座に収まり次から次へやってくるお客さん達と記念撮影。後はドゥスン式のお料理やスープ、デザート、飲み物で少し早目のランチをいただく。

同じ日の夕方からは〔チャイニーズニューイヤー〕のオープンハウスがラナウのシティ ホールで開催されることになっている。ちょっとお疲れ気味の Mr M さんを除く全員が参加。案内されたテーブルにはスラゴンの別棟にステイしている英国人の ANJELA、もう一つの棟にステイしているアメリカ人の若いカップルが席に着いていた。いつものように、Dr オスマンの客である我々までVIP扱いの上席に案内される。Dr オ



スマンさんの到着を待っていたかの様に、国歌斉唱、サバ州 州歌斉唱が行われた。国歌も州歌も明るく力強い曲、それを元気に誇らしげに歌う子供達、大人達の姿にはいつも感動させられます。

Dr マシディ大臣、マレーシア政府科学技術大臣 Dr EWON も列席の公式オープンハウスだった。オープンハウスというのは当地の風習で、年4回、【イスラムのお盆に当たる、断食明けのハリラヤ】【クリスチャンのためのクリスマス】【中華系国民のためのチャイニーズ・ニューイヤー】【カダザンドゥスン族の収穫祭・カアマトン】で行われる。今回の様なパブリックのオープンハウスの他、余裕のある人が自分の家を開放してのオープンハウスがあります。そこでは誰でもが参加してご馳走を頂いて歌や踊りを楽しむ、と言うとても大らかな慣わしです。国教はイスラム教と定めながらも、多民族、多宗教が融和している優しさを感じます。

この様なお国柄、(諸問題を多々抱えていることでしょうが)そして優しい人柄、人情、豊かな大自然に抱かれている、ここボルネオ島に我々は惹きつけられているのだ、とつくづく思います。今の日本で、道ですれ違う時、エスカレーターですれ違う時に微笑みを交わすことなんて考えられるのでしょうか？朝の挨拶を、知らない大人、しかも外国の人に笑顔で声に出す子供達がいるのでしょうか？

(あとひとつ イベントがありました.)

3月3日(火) [ひな祭り&私のバースデー]



スラゴン・ホームステイに通い続けているここ数年私は誕生日をこの地で、ここの人々そして日本各地から集う人々にお祝いして頂いています。

張り切ってお料理を作って下さる Dr ルンキャムさんとスタッフの面々、料理大得意の Mr KA さん、自炊ベテラン女史の Y さんと女性陣、絶対欠かすことなくしっかりとアッラーの神へのお祈りを済ませて2階から降りて来て下さった Dr オスマンさん全員の”

HAPPY BIRTHDAY DEAR

MOMOYO “の大合唱に合わせて、2つの大きなケーキに立てられた2つのローソクを一度に吹き消して皆を驚かせた私。スラゴンの全員が同じテーブルで、同じお料理、ケーキを頂く至福の時を過ごしました。いつも、いつも

皆さんアリガトーございます。本当はスラゴン先住民であるはずの私、気が効かなくて大したお手伝いもできず、かえって色々アドバイスして下さった R さん、有難うございました。



今年の冬の滞在は誕生日の翌日まで、3月4日にチェックアウト、コタキナバルに1泊後、3月5日台湾周遊の旅へと出掛けました。そして3月16日、無事、元気に、戴いた幸せを、いっぱい身に付けて帰って来ました。